



徳島大学

# 歯学部だより

Tokushima University Faculty of Dentistry

第1号 2015.4.1



## 新入生の 皆様へ

歯学部長

河野 文昭

本年度も徳島大学歯学部に歯学科 40 名、口腔保健学科 15 名の新入生を迎えることができました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

徳島大学歯学部は、昭和 51 (1976) 年に四国で唯一の歯学部として、国立大学としては全国で 8 番目に設置され、今年で 39 年になります。平成 19 (2007) 年には、歯学科に加え、歯科衛生士と社会福祉士の 2 つの国家資格が取得可能な口腔保健学科を設置し、歯科医学と福祉を融合して学ぶことのできる全国でもユニークな歯学部として発展してまいりました。また、徳島大学の理念である自主・自立、進取

## CONTENTS

- 1 学部長挨拶
- 2 教育の動向
- 3 病院の動向
- 4 研究の動向
- 5 就職・進学、国試、入試の状況
- 6 各種紹介
- 8 掲示板

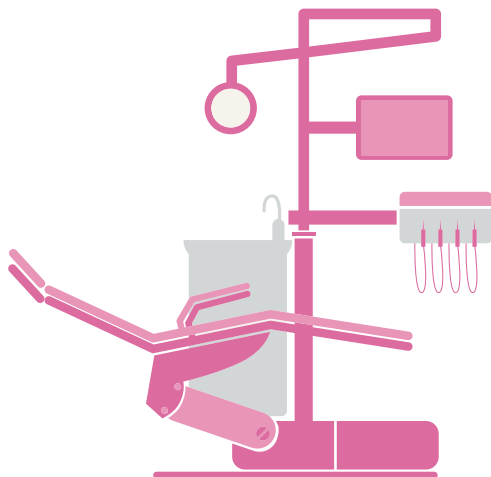
の気風に基づき、地域性と医学・歯学・薬学・栄養学の教育・研究拠点である蔵本地区に位置する利点を活かして、これまでに地域で活躍する人間性豊かでリサーチマインドを持つ歯科医師をはじめとした高度専門職の養成と先端的な歯科医学・医療の研究・開発など革新的な研究を推進し、中国・四国地区の歯科医学・口腔保健、福祉をリードする拠点として存在感を示しています。

高齢社会を迎えた今、歯科診療は、医療、福祉、行政との連携が必要不可欠となっています。そのため、歯学部では、時代のニーズに沿って多職種協働ができる感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材、保健、医療・福祉に貢献する専門職の育成を教育目標に挙げています。そこで、学生数が少ないことの利点を活かし、1 年次から「気づきの体験学習」、「食と健康学習」や「研究室配属」などの能動的学習の機会を多く設けています。

徳島大学歯学部で 4 年間／6 年間で学ぶことは、新人医療・福祉従事者として必要不可欠な基本的知識・技術・態度でしかありません。大学生に求められる学習は、「自ら学ぶ」ことです。若い 20 代のこの貴重な時期に大学での学習だけでなく、ボランティア活動、クラブ活動など様々な社会経験をして、社会人としての教養、人間性を磨くこと、人と人とのネットワークを構築することも必要です。これらは皆さんの将来の宝となることでしょう。

歯科医療は大きく変わりつつあります。皆さんが卒業する頃には、医療と福祉の連携が進み、歯科医療の重要性はますます高まることが予想されます。20 年後、30 年後の自分の将来を見据えて学生生活を有意義に過ごしてほしいものです。

教員一同、皆さんの成長を全力で支援いたします。一緒に徳島大学歯学部の中にも皆さんの 1 ページを作りましょう。



## 教育の動向

前教務委員長 日野出 大輔

新入生の皆さんはこれからの歯学科6年間、口腔保健学科4年間での学びを糧に、社会へ大きく羽ばたくことを夢見ていることでしょうか。また、新入生や在学生の保護者の方々は、徳島大学歯学部ではどのような授業を行っているのか、興味を持たれていることと思います。

徳島大学ではアクティブ・ラーニングと定義される「教員による一方的な知識伝達とは異なり、課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れることにより、学生自らが考え抜くことを教員が促し、学生の能動的な学習を促進させる双方向の教授・学修」を積極的に導入しようとしています。特に新入生の皆さんは入学直後の大学入門講座において「SIH道場 ～アクティブ・ラーニング入門～」を受講します。これは、文部科学省の平成26年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された取り組みで「Strike while the Iron is Hot (鉄は熱いうちに打て)」として、初年次学生の能動学習と教員の新たな教育手法を推進するものです。従来から歯学部では、大学入門講座において読書レポートや問題解決型授業に加えて、気づきの体験学習／相互歯磨き学習等の良好なコミュニケーションの習得を目的とした体験学習を実施しています。高校までの知識を教授する座学とは異なった授業形態の中で、能動学習に挑んで欲しいと考えています。

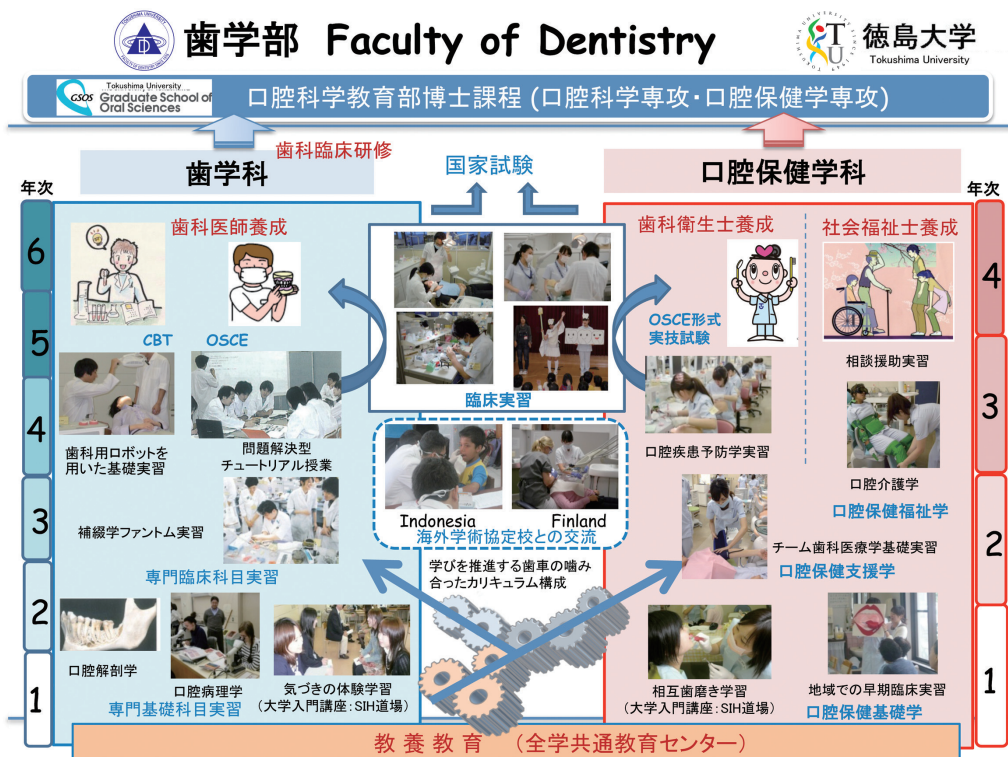
両学科の卒業までのカリキュラムをポンチ絵として示しました。

1年次は主に全学共通教育センターにおいて教養教育を学びます。歯学科では2年次後期より専門科目が開始さ

れます。その後5年次前期に全国統一の歯学共用試験（コンピューター試験：CBT および客観的臨床能力試験：OSCE）を実施します。これらの関門をクリアして初めて5年次後期から実際に患者さんの診療を行う臨床実習が可能となります。口腔保健学科では共用試験はありませんが、規定の単位と実技試験の合格をもって口腔保健衛生学臨床・臨地実習に臨めますし、社会福祉関連の規定の単位取得をもって相談援助実習を実施することが可能となります。臨床実習は大学病院だけでなく、学外の高齢者施設等での実習も含まれます。両学科とも最終的に、歯科医師国家試験、歯科衛生士国家試験および社会福祉士国家試験を受験し、合格してそれぞれのライセンスを取得し、（歯学科では臨床研修後）、社会へ巣立っていく者、更に大学院へ進学する者と別れてそれぞれの道を進みます。

国際化、グローバル化も進めており海外の学術協定校との交流も盛んです。

教員の立場から学生の皆さんにお願いしたいことは、徳島大学歯学部では探求心をもって貪欲に学問に挑んでいただきたいことです。歯科医療や社会福祉に関する膨大な情報量に対し、わずか6年間／4年間の学びの中で私たちが教授できる内容とは、本当に核となる僅かな知識と、どのように有用な情報を選択し、効率的に知識・技能を習得していくのかという「学び」です。自ら努力する能動的学習なくして社会から求められる歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士にはなれません。皆さんのこれからの活躍を期待しています。



以前、大学病院は学部の附属病院という位置づけで、特に歯学部附属病院では学生臨床実習（いわゆる一診）がその重要な役割でした。現在でも歯科診療部門（以下：歯科）の重要な使命は学生実習ですが、大学病院自体が部局として独立性を高めており、歯科においても経営的な視点が重要視されています。大学としても病院収入が運営上の大きな支えとなっています。従って、その稼働額に注目せざるを得ず、さらに、運営交付金は年々減額され、授業料収入には限りがあるため、大学の病院収入への依存は大きくなるばかりで、採算性の劣る歯科への風向きは芳しくありません。

病院収入を改善するとは、物的資源や人的資源を効率化するということであり、採算部門に資源を集中して不採算部門を減らすということです。これは一般の病院そして企業と同じです。一方、教育は採算・不採算という枠組みとは別仕立てで、いかに社会に有用な人材（歯科でいえば立派な歯科医）を育てるかが評価の指標となります。現在、

この病院経営と教育という異なる指標を、いかにうまく調整し、整合性を持つかが歯科の大きな課題となっています。

超高齢社会を迎え“延命より QOL”という価値観への転換が進んでいるように見えます。すなわち、「最後までより自分らしく生きる」という価値観が受け入れられるようになり、口腔ケア、口腔機能管理・維持がにわかにクローズアップされるようになってきました。また、歯周病など口腔疾患と糖尿病などの全身疾患の関連が明らかになるにつれ、医科の歯科に対する見方も変化しはじめ、医科からのアプローチも増えてきました。今後、医科・歯科連携がキーワードになると思われます。

政策的にも医科・歯科連携に資源（お金）の投入が予想され、歯科も経営的にゆとりが持てれば、本来の教育病院としての姿を取り戻すことも可能と思われます。今後この流れに乗り、有為の歯科医師を育てることが歯科の戦略として有用と考えられます。

## 臨床技術紹介

### ■ 保険適用されたハイブリッドレジンによる CAD/CAM 冠

歯科・第二補綴科 松香 芳三

ハイブリッドレジンとは歯の詰め物の際に使われるレジン（プラスチック）に、セラミックの粉末を混ぜた素材です。レジンとセラミックの両者を組み合わせることで、レジンの変色しやすく磨耗しやすい欠点とセラミックの硬すぎて他の歯を傷めてしまう欠点をカバーし、適度な強度と粘り強さを併せ持つようになります。CAD/CAM 冠はブロック状のハイブリッドレジンを用いた専用の機械で歯のかぶせ物の形に削り出すものです。歯の形のデータをコンピュータに入力し、コンピュータの中でかぶせ物を設計し、均一で高品質な補綴装置が出来上がります。

ハイブリッドレジンを使用した CAD/CAM 冠は平成 26 年 4 月より小臼歯部（前から 4、5 番目の歯）に保険適用となりました。これまでは、小臼歯のかぶせ物は保険適用では銀歯が多く、金属を使用しているため金属色が目立っていました。また、金属アレルギーの人には使用できませんでした。今回の CAD/CAM 冠の保険適用により、それらの欠点が解消され、多くの人に高品質な白い歯を提供することが可能になりました。CAD/CAM 冠の利点は白い色、天然の歯が削れにくい、噛んだときのあごへの負担が少ない、金属アレルギーを起こさないなどです。一方、欠点は年数が経つと変色する、歯よりは強度が低いなどです。

### ■ 歯根の中やその周囲の炎症病変に対する現代の歯内治療法の進歩

歯科・第一保存科 湯本 浩通

齶蝕（虫歯）から端を発し、細菌が歯の中へ侵入すると、歯髄（歯の中の神経や血管を主体とした組織）や根の先とその周囲に炎症が波及し、その治療として歯内療法（根の治療）が必要となります。この歯内療法の 2 つの大きな目的として、“根の中の感染源（病原因子）の除去”と“再感染を防止するための緊密な充填・封鎖”が挙げられます。しかし、根の中の構造は、木の幹から多くの枝が分かれているように非常に複雑で、さらに肉眼では根の中を直視できないために、治療が困難または難治性となる場合も少なくありません。そこで、平成 26 年 4 月から難治性の病変に対して、一般的なレントゲン撮影による平面的な画像に加えて、立体的に歯や根とその周囲の病変部の構造を把握できる歯科用コーンビーム CT 撮影が保険適用となりました。さらに、歯科用顕微鏡（マイクロスコープ）を用いることにより、これまで観察が困難であった根の中のより深い部分までも観察することが可能となりました。また根の中を充填・封鎖する材料にも改良が加えられ、より歯質と接着するものも応用されています。加えて、現在、当科では根の先とその周囲に棲息する細菌の殺菌と生体組織の治癒促進を目指した新規の治療法の開発を目指して、高周波・電磁波照射を用いた臨床試験も行っております。

## 研究の動向

歯学部副学部長（研究担当） 石丸 直澄

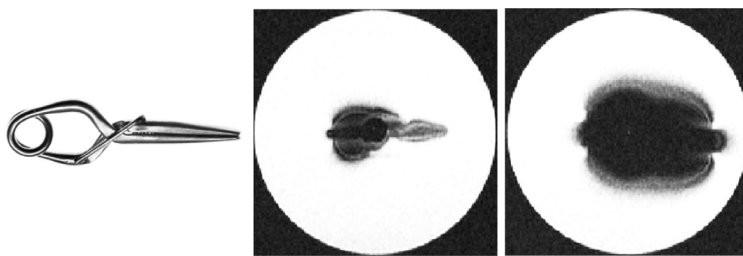
歯学部では、口腔を起点とした健康維持・増進の発展に向けて、様々な方向から幅広い研究が行われています。基礎系では、人体の発生の仕組みや病気の発症機序の探索研究、再生医療や医療デバイスに寄与する先進的な研究が進展しています。臨床系では、口腔領域を中心とした様々な疾患の診断、最先端治療法の開発に加え、口腔保健系では、社会福祉、地域医療など社会のニーズに合った高度な研究が行われています。歯学研究の進展とともに、研究を通じた医療人の育成により、国民の健康福祉の発展に寄与できるものと考えます。以下に歯学部を代表する研究室を紹介いたします。

### 歯科から世界へ

生体材料工学分野 濱田 賢一 教授

歯学部に入學し、研究者を目指している貴方！研究では、歯科という境界に縛られる必要はありません。

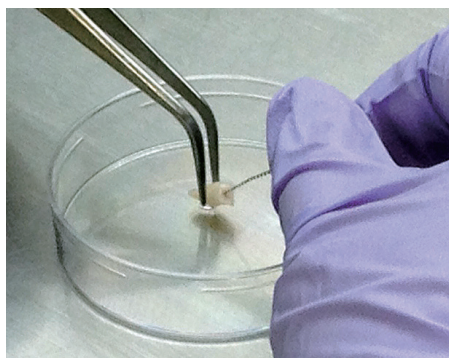
私は生体医療用材料の研究に取り組んでいます。私は生体医療用材料の研究に取り組んでいます。私は生体医療用材料の研究に取り組んでいます。写真は当分野で開発した金合金製の脳動脈瘤クリップです。脳のMRI撮影で影が出にくく、患部が明瞭に観察できることを目指しています。歯科とは無縁？実は歯科の伝統である金合金の研究が反映されています。研究の鍵は創造性です。どうか自由に研究の翼を拡げて下さい。



(写真左：試作クリップ、写真中：試作クリップMRI像、写真右：市販クリップMRI像)

### 乳歯は未来の救世主？

小児歯科学分野 岩本 勉 教授



小児歯科って何をやるのでしょうか？われわれはただ単に子ども達の歯の治療をしているだけではありません。子ども達が成人になるまでに健全な永久歯咬合の獲得ができることを目指した治療と口腔機能の育成を行っています。これらの目標を達成するには全身の成長発育の理解は勿論のこと、歯を含めた口腔顎顔面の形成メカニズムを理解、精通していなければ臨床的判断を誤ってしまうこともあります。

当教室では歯がどのようにしてできるのか、その過程で働く遺伝子やタンパク質の役割解明を中心に、口腔内にできる病気メカニズム解明を目指して日々研究を行っております。最近では乳歯の中に再生医療に使うことができる多能性の幹細胞がいることもわかってきました。乳歯が抜ける時、そこから細胞

をとって皆が保存する時代がくるのもそう遠くないかもしれません。小児歯科では子ども達の未来を支える臨床と研究に取り組んでいます。興味がある人は勿論、そうでもない人も、いつでも教室に遊びにきて下さい。

### 口歯科衛生士・言語聴覚士のキャリアアップ支援!!

口腔機能管理学分野 松山 美和 教授

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

私たち口腔管理学分野は、教員2名（教授、助教）と大学院生7名（博士課程1名、修士課程6名）から成る口腔保健学科の研究室です。学部教育として補綴系歯科学、口腔介護学、高齢者口腔保健衛生学、摂食・嚥下リハビリテーション学と歯科保健指導論を、大学院教育として修士課程の口腔機能賦活学および同演習を、博士課程の口腔機能管理学特別演習および同特別研究を担当しています。

写真でお気付きかもしれませんが、所属学生はほとんどが社会人大学院生です。職種も歯科衛生士だけでなく、言語聴覚士も在籍しています。各自の臨床経験に基づく興味ある研究テーマを、修士研究や博士研究として追求し完成させるために、仕事と研究を両立させ頑張っています。これまでに修士号を取得した研究テーマは、「血液透析患者の口腔乾燥に対する口腔機能訓練の効果」「地域在宅高齢者における骨格筋量・骨格筋力・身体能力と口腔機能との関係」「特別支援学校における歯科医療連携体制の問題点抽出」「ダウン症候群児の粗大運動能と摂食に関わる口腔異常習癖との関係」です。

みなさんも将来、私たちと一緒に研究しませんか？



歯学科入学試験競争率の動向を見ると、平成24年度以降では、全ての年で国立大学全国平均を上回り、比較的高い競争率（平均5.2倍）を維持しています。平成26年度入学者の出身県別の比較では、徳島県が最も多く、次いで兵庫県、大阪府などと続きます。入学者に対する女子学生の割合は緩やかな増加傾向にあり、これは全国的な動向と一致しています。口腔保健学科の入学試験の動向をみると、設置している大学が少ないので全国的な比較は困難ですが、歯科衛生士と社会福祉士の2つの免許が取得できることから高い人気を維持しています。入学者の出身県別では徳島県が高い比率となっています。歯科医師国家試験合格率については、国立大学全般に年度ごとに差がある傾向にありますが、最近の徳島大学はそれが著しい傾向にあります。歯科衛生士国家試験の合格率は100%を維持しており、社会福祉士国家試験合格率については全国平均を大きく上回り、最近では2年連続で一位となっています。歯学科卒業生の臨床研修先については、例年、徳島大学が最も多く、次いで他大学医学部の歯科口腔外科、歯学部を有する他大学、総合病院歯科口腔外科などとなっています。口腔保健学科の卒業生の就職先は、市役所など公的機関、大学病院、総合病院、歯科診療所など多岐にわたっています。歯学科卒業生で本学大学院博士課程に進学する者の数は、過去3年平均で7名となっています。口腔保健学科卒業生では毎年1～2名が大学院修士課程に入学しています。キャンパスライフについては、多くの学生が各種サークルに所属し、全日本歯科学生総合体育大会で優勝するなど好成績を収める学生もいます。また、学部学生または大学院生で、学外の名誉ある賞を受賞する学生もいます。

学生数  
(5月1日現在)

### 歯学部歯学科 (定員 40名)

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計
24年度	(27)	(14)	(16)	(20)	(14)	(21)	(112)
	42	40	41	49	34	49	255
25年度	(24)	(26)	(18)	(12)	(22)	(12)	(114)
	43	41	48	36	49	36	253
26年度	(14)	(21)	(28)	(19)	(14)	(19)	(115)
	44	37	46	48	38	48	261

※( )内の数は、女子学生を示し内数である。

### 歯学部口腔保健学科 (定員 15名)

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
24年度	(15)	(14)	(12)	(16)	(57)
	15	16	12	16	59
25年度	(15)	(16)	(13)	(12)	(56)
	15	16	15	12	58
26年度	(15)	(14)	(15)	(13)	(57)
	16	14	15	15	60

※( )内の数は、女子学生を示し内数である。

入学試験  
実施状況

### 歯学部歯学科 (編入学を除く)

学 科	募集人員	前 期		後 期		推 薦		帰国子女		合 計	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
24年度	40	106	20	184	10	32	10	0	0	322	40
25年度	40	173	18	158	11	28	10	1	1	360	40
26年度	40	120	20	197	10	26	10	0	0	343	40

### 歯学部口腔保健学科

学 科	募集人員	前 期		後 期		推 薦		合 計	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
24年度	15	25	4	52	5	19	6	96	15
25年度	15	36	6	32	4	17	5	85	15
26年度	15	35	5	79	4	32	6	146	15

国家試験  
合格状況

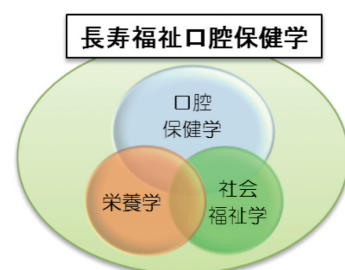
	歯 科 医 師			歯 科 衛 生 士			社 会 福 祉 士		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
23年度	71	53	74.65	16	16	100	16	13	81.25
24年度	61	51	83.61	16	16	100	17	16	94.12
25年度	39	23	58.97	12	12	100	12	12	100

## 徳島大学大学院口腔科学教育部口腔保健学専攻(博士後期課程)の設置

口腔保健学科長 白山 靖彦 教授

平成27年4月に大学院口腔科学教育部口腔保健学専攻(博士後期課程・3年制)を開設し、口腔保健学に加えて栄養学、社会福祉学、老年学を包含した新しい学際領域「長寿福祉口腔保健学」の教育者や研究者の養成を開始致します(右図)。

このように歯学部口腔保健学科では全てのライフステージにおいて口腔から全身の健康を支援し、超高齢社会において持続可能な健康長寿社会の実現に貢献できる新しい人材を養成しております。



## 各種紹介

### 役員等紹介

#### ◆ 歯学科 クラス担当教員

1 年次生	岩本 勉 教授
	濱田 賢一 教授
2 年次生	河野 文昭 教授
	三宅 洋一郎 教授
3 年次生	伊藤 博夫 教授
	松香 芳三 教授
4 年次生	石丸 直澄 教授
	北畑 洋 教授
5 年次生	東 雅之 教授
	吉村 弘 教授
6 年次生	市川 哲雄 教授
	野間 隆文 教授

(アイウエオ順)

#### ◆ 平成27年度 歯学部執行部、同窓会役員等紹介

委員会等名	氏名	所属等
歯学部長	河野 文昭	総合歯科学分野
副病院長 (歯科診療担当)	松尾 敬志	歯科保存学分野
歯学科長・副学部長	野間 隆文	分子医化学分野
口腔保健学科長・副学部長	白山 靖彦	地域医療福祉学分野
副学部長	石丸 直澄	口腔分子病態学分野
入学試験委員長	濱田 賢一	生体材料工学分野
教務委員長	松香 芳三	顎機能咬合再建学分野
学生委員長	吉村 弘	口腔分子生理学分野
同窓会長	薦田 淳司	(5期)
同窓会副会長	小寺 尚和	(1期)
	中西 正	(7期)
	柴田 享	(7期)
同窓会専務理事	山口 貴功	(10期)

#### ◆ 口腔保健学科 クラス担当教員

1 年次生	伊賀 弘起 教授
	渡辺 朱里 助教
2 年次生	尾崎 和美 教授
	中江 弘美 助教
3 年次生	松山 美和 教授
	吉田 賀弥 講師
4 年次生	白山 靖彦 教授
	柳沢 志津子 講師



### 学章

徳島大学、  
歯学部関係の  
ロゴ、マークに  
ついて



徳島大学の学章  
(2001年に制定)



徳島大学の  
コミュニケーションマーク  
(2011年に制定)



ヘルスバイオサイエンス  
研究部のロゴ  
(2004年に制定)



大学院口腔科学  
教育部のロゴ  
(2007年に制定)



歯学部のロゴ  
(1996年に歯学部創立  
20周年を記念して制定)



口腔ケア啓発のための  
イメージキャラクター  
(2014年商標登録)

## 退任の挨拶

口腔顎顔面解剖学分野 教授 北村 清一郎

定年まで1年を残しますが、本年3月31日で退職いたします。徳島大学の教職員、特に歯学部の皆様、また徳島大学歯学部同窓会の皆様には本当にお世話になりました。私が一応の任務を全うできましたのは、皆様方の助けがあったからと心から感謝申し上げます。

平成5年に大阪大学歯学部から移って来ましたので、本学で22年間お世話になったこととなります。この間、16年間を単身赴任で過ごし、家庭を顧みず、大学が生活の場となりましたが、3人の子供が立派に成長したのは、留守を守ってくれた家内のおかげです。

昭和50年に大阪大学歯学部を卒業後、直ちに母校の口腔解剖学第二講座の助手に任官しましたので、40年間を解剖学教員として過ごしたことになります。この間、一貫して肉眼解剖学の講義と実習に携わることができ、無償で献体されたご遺体の真心を通して、学生が医療従事者として目覚めていく姿を間近に眺めることができました。私にこの喜びを与えてくれた卒業生、在校生の皆様感謝申し上げます。

徳島大学歯学部では口腔顎顔面領域の肉眼解剖学の仕事に従事してきました。業績を絶えず求められるこの時期、“労多くして功の少ない”この仕事を私にさせてくれたのは本

学の度量の広さです。おかげで、ライフワークとしての「臨床家のための口腔顎顔面解剖学アトラス」(医歯薬出版)を上梓でき、一応の評価を得ることができました。最近ではヒト嚙下関連筋の三次元構築を肉眼解剖学的に調べ、歯科医療界で重要性が増しつつある摂食嚙下障害の面で何か役立つことができないかを模索しています。

全学的には学生相談室の創設に関わりました。楽しい仕事ばかりではありませんでしたが、相談室発展の礎を築けたと自負しています。歯学部にも“人体解剖と骨のミュージアム”も設立しましたが、退職された一教員さんの収集された動物標本が基礎となっています。人体解剖標本も多く作製して学内・学外の多数の医療系教育機関の解剖見学実習に供し、また、多くの医療系社会人を科目等履修生として受け入れてきました。これらの活動は口腔顎顔面形態学分野が地域の解剖教育センターとして十分貢献してきたことを示します。

最後に、私がここまでやってこられたのは、ひとえに一緒に仕事をしてきた分野メンバーのお陰です。彼らは他大学に類をみない解剖実習のプロフェッショナルで、徳島大学歯学部の宝であると誇りに思っています。

## 人体解剖と骨のミュージアム

口腔顎顔面解剖学分野 教授 北村 清一郎

「人体解剖と骨のミュージアム」を歯学部一階玄関奥に設置し、2013年5月から一般にも公開しています。広さは約140m<sup>2</sup>で、動物骨格標本157点、シリコン含浸内臓標本72点、ヒト骨格系標本68点、人体解剖模型57点など約350点が展示されています。人体標本の展示の目的は「人体標本の見学を通して、人体に対する理解を深めてもらうこと」です。医療でのインフォームド・コンセントが適切に行われるためには、患者自身も人体についてよく知っていることが必要です。動物標本の展示目的は「歯学部の専門分野である顎を導入口として、医療や人体に関心をもってもらう」ことです。最後まで自分の口で食事できることは、老人の切なる願いの1つです。顎と歯を使って食べ物をかみ砕く機能(咀嚼)が、健康や長寿と深く関わり、また顎の形にも影響を及ぼすことが知られています。動物の食生活と顎の形の関連から、咀嚼の重要性を学ぶことができます。



- 開館時間…原則、毎週水曜日(祝祭日を除く)の13時から17時30分
- 入場料は無料、利用には予約が必要
- 予約方法…下記に郵便、ファックス、またはメール

山下 菊治

〒770-8504 徳島市蔵本町3丁目18-15 徳島大学歯学部口腔顎顔面形態学分野  
TEL : 088-633-9120 / FAX : 088-633-7320  
MAIL : yamashita.kikuji@tokushima-u.ac.jp

徳島大学歯学部  
教育研究基金へのご協力をお願い



徳島大学歯学部は、2016年に創立40周年を迎えます。その歴史の中で、新設ながら教授14名を含む多くの研究・教育者を生み出すとともに、地域医療に貢献する多彩な医療人を育ててきました。

一方、大学を取り巻く状況は年々厳しくなっており、高い志を持つ学生や研究者に対して支援できる環境もなくなりつつあります。しかし、このような状況にあっても、徳島大学歯学部にご与えられたミッションを進め、本学の人材育成が疎かにはなりません。そのためには是非とも皆様のご厚志をもって安定した独自財政基盤の充実が必要であり、「徳島大学歯学部教育研究基金」を創設し、皆様にご協力をお願いする次第であります。本学の発展のために、そして本学の人材育成を充実させるために、この趣旨にご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄付をいただいた方には、この歯学部便りにご芳名を掲示させていただき、特に6口（一口5,000円）以上の方には感謝状を、20口以上の方には大学校舎内に掲示させていただきます。

詳しい概要は徳島大学歯学部ホームページをご覧ください。その他寄付についてのご不明点、ご相談がある場合には、歯学部総務係あるいはお知り合いの教職員に遠慮なくお問い合わせください。

教員人事異動

※講師以上・昇任を伴わない  
研究部・病院間の異動は除く。

◆ 転 出 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

※日 時	※分 野 等	※職 名	※氏 名	
平成27年3月31日	口腔顎顔面解剖学	教授	北村 清一郎	HBS歯学系
平成27年3月31日	小児歯科	講師	郡 由紀子	病院
平成27年3月31日	口腔管理センター	特任講師	高橋 加奈子	病院

◆ 転 入 (平成26年4月1日～平成27年4月1日)

平成26年4月1日	歯科(第二保存科)	講師	成石 浩司	病院
-----------	-----------	----	-------	----

◆ 昇 任 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

平成26年4月1日	口腔分子病態学	准教授	新垣 理恵子	HBS歯学系
平成26年4月1日	生体材料工学	講師	関根 一光	HBS歯学系
平成26年6月1日	矯正歯科	講師	泰江 章博	病院
平成26年7月1日	歯科(第一補綴科)	講師	渡邊 恵	病院
平成26年10月1日	小児歯科	講師	中川 弘	病院
平成26年10月1日	歯科口腔外科(歯科麻酔科)	講師	高石 和美	病院
平成26年12月1日	総合診療歯科学	講師	安陪 晋	HBS歯学系
平成26年12月1日	口腔保健衛生学	講師	RODIS Omar Marianito Maningo	HBS保健科学系
平成27年1月1日	口腔管理センター	特任講師	高橋 加奈子	病院
平成27年1月1日	口腔管理センター	特任講師	後藤 崇晴	病院
平成27年4月1日	分子医化学	准教授	三好 圭子	HBS歯学系
平成27年4月1日	口腔組織学	准教授	岡村 裕彦	HBS歯学系

受賞一覧

日 時	受 賞 名	受 賞 者
平成26年4月	日本歯周病学会第3回四国地区臨床研修会優秀ポスター賞	村田 裕美
平成26年5月	平成25年度日本補綴歯科学会中堅優秀論文賞	内藤 禎人
平成26年5月	平成25年度日本補綴歯科学会特定推進研究論文賞	水頭 英樹
平成26年6月	日本歯科保存学会・学会奨励賞	中島 由紀子
平成26年7月	第3回徳島新聞生命科学分野研究支援金	小林 莉子
平成26年9月	日本口腔インプラント学会特別論文賞	市川 哲雄
平成26年10月	日本歯科理工学会研究奨励賞	乾 志帆子
平成26年10月	第73回日本矯正歯科学会大会優秀発表賞	七條 なつ子
平成26年10月	第73回日本矯正歯科学会大会優秀発表賞	森 浩喜
平成26年10月	第73回日本矯正歯科学会大会優秀発表賞	黒田 晋吾
平成27年1月	第3回日本バイオマテリアル学会中四国シンポジウム優秀発表賞	Widyasri Prananingrum